

熊中

クールな(いかした)生徒
 マナーを守る(礼儀をわきまえた)生徒
 ニーズがある(必要とされる)生徒
 シーンを創れる(場面を演出できる)生徒

校長室 だより
 学力特集号
 北九州市立熊西中学校
 校長 江口 恵子

平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語・数学)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科・領域も含め、総合的に学力向上を目指しています。

詳しい結果分析については、本校ホームページでも公開しています。どうぞご参照ください。

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査結果と分析

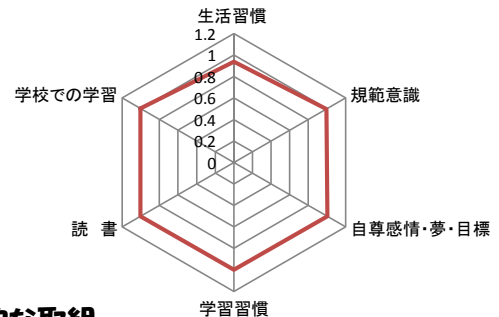
カテゴリー	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均をわずかに下回っていたが、「読むこと」は上回っていた。全校一斉読書や、「言葉の力」を高める取組等の効果が表れている。 「書く力」を問う問題にまだ課題はあるが、書くことの習慣化により改善されてきている。 	下回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均をわずかに下回っていたが、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「記述式」は上回っていた。 説明的な文章における構成や要約に課題があるので、文種に応じた指導が必要である。 	下回っている
数学A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均をわずかに下回っていたが、「関数」は上回っていた。 数量や図形についての知識・理解は高くなってきているので、応用する力を付ける必要がある。 	下回っている
数学B	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には全国平均をわずかに下回っていたが、「数と式」「資料の活用」は上回っていた。 数量の変化、図形の証明など、筋道を立てて考える力を付ける必要がある。 	下回っている

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

質問紙調査の結果分析

・昨年度まで、「自分には、よいところがあると思う」生徒が少なく、全国平均を大きく下回っていたが、今年度は大幅に増え、全国平均を上回った。この自己肯定感を具体的な目標や夢に結びつけていく必要がある。

・毎日同じくらいの時刻に寝ることができていない生徒が、全国平均に比べて多い。メディア接触時間は全国平均に比べてやや少ないものの、生活習慣の確立に向けてさらに取組を継続していく。



3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

・授業のめあての提示はできているので、2学期以降は、毎時間、授業の流れを初めに示し、生徒が見通しをもって学習に取り組めるようにする。

・毎時間、生徒が「学習のまとめ」を自分の言葉で書いたり、言ったりできるように、徹底していく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

・熊中ノートなどを活用し、「1学年 1時間40分」「2学年 1時間50分」「3学年 2時間」の家庭学習の量と質を充実させていく。

・「携帯・スマホ電源10時OFF」の取組への協力を通信等で保護者にもお願いし、生活習慣を確立させていく。